

鷲島光一郎 | わしじま・こういちろう |

日本製鉄株式会社 設備・保全技術センター 無機材料技術部 無機材料技術室 炉材基盤開発課 スタッフ

鷲島光一郎

2018年度
大学院工芸科学研究科
博士前期課程
材料創製化学専攻 修了



Fig.1——会社のエントランスにて

Fig.2——大学院修了式での記念の1枚



研究に取り組む中で

課題解決力が磨かれた

京都工芸繊維大学に進学する際、地元の神奈川県を離れることへの不安から同回生と馴染めるのか心配をしていました。しかし、入学後4月が終わる頃には同じ応用化学系の同回生を通じて、他課程の学生とも交流を持てるようになりました。最初に知り合った友人とは大学院修了までに、講義、試験勉強、飲み会、旅行など多くの時間を共に過ごすことができました。このように京都工芸繊維大学は、定員が少ないからこそ多様な地域から進学してきた同回生同士で自然と打ち解けられる環境があると思います。

大学生活は日本製鉄株式会社（以降、日本製鉄）への就職後も役に立っています。高温材料学研究室では、純粋に実験から考察までの一連の過程に主体的に取り組む環境があり、一つ一つの原理原則を追求していくプロセスを体験できました。また、留学生と競うように研究活動に励む過程で英語力と多様性への理解が深まり、国際学会に参加、発表する機会もありました。会社においてバックグラウンドの異なる人と協力しながら課題を解決するためには、事実に基づいて客観的に物事を明確に伝える必要があり、特に研究室での経験は課題解決の過程でとても重宝しています。

耐火物の研究開発を通じて

鉄づくりに貢献

小さい頃から世界を舞台に活躍したいという思いや、素材や製造プロセスに興味を持っていたことから、日本製鉄への入社を決めました。日本製鉄は、総合力世界No.1の鉄鋼メーカーとしてのプレゼンスを発揮して、鉄づくりを通じて社会を支えるという重要な役割を担っています。原料である鉄鉱石を還元溶融、精錬（成分調整）、凝固、圧延、表面処理する工程においてトンスケールからナノスケールま

で鉄鋼製品を造りこむには、材料の知識だけでは不可能で、活力溢れる多種多様な人材が活躍しています。

私が所属している無機材料技術部では、鉄づくりに欠かせない高温に耐えられる耐火物およびその周辺技術の研究、開発、保守を行っています。研究開発業務では、製鉄所で使用した耐火物の解析や新しい耐火物の開発、あるいは高温環境で起こる現象を評価するための技術開発を、周辺技術においては現場での効率的な施工方法や点検・補修方法の技術開発にあたっています。そして、学生時代に学んだセラミックスの知識や研究活動の経験を活かし、世界一の耐火物技術者を目指しています。

腹を割って話せる友人を

大切にしてほしい

自分の夢や将来について話せる友人を一人でもいいので大切にしてほしいと思います。就職活動を終えて、社会人生活を始めてからの2年半を振り返ると、辛い日々の中にも楽しい瞬間が常にありました。互いの夢について真剣に話し合っ、相手から刺激を受けてモチベーションを上げることも必要ですし、悩みを打ち明けて息抜きをすることもとても重要です。京都工芸繊維大学には理系単科大学特有の個性ある学生が多いように感じますが、根本的に真面目な学生が多い印象です。ぜひ、真面目な話を笑って話せる友人をつくってほしいと思います。

既に多様性の時代が訪れています。大学では自分と気の合う友人、先輩、後輩と過ごすことがほとんどだと思いますが、会社では様々な人と一緒に仕事をします。お互い気持ちよく、円滑に業務を進めるためにはルールを守りながら具体的な業務計画をもとに連携していく必要があります。自分の決めたルールを順守して周囲との協働に意識的に取り組む、そして時には友人と話して息抜きをする、これらを身につけることが社会人への準備になると思います。

目指すは世界の耐火物技術者。
多種多様な人と協働して、社会を支える鉄づくりを担う。